大人のぜんそくを考える

自己判断せず医師の診断を

子どもの頃にぜんそくにかかり、現在も時折ぜんそくの症状に悩まされるというタレントの優木まおみさん。最近、ぜんそく治療に取り組み始め、真剣にぜんそくに向き合うことを決意した優木さんが、大人のぜんそくについて、けやき内科院長の加藤景介先生と語り合った。

タレント 優木まおみさん

けやき内科院長 加藤景介先生

Profile（ゆうき・まおみ）

1980年佐賀県生まれ。バラエティー番組や情報番組のMC、女性誌のモデルなどに幅広く出演、最近では報道番組のコメンテーターを務めるなど活躍の場を広げている。2013年結婚、14年第1子出産（女の子）、17年第2子出産（女の子）を経て妻として母としても日々成長中。

Profile（かとう・けいすけ）

1993年名古屋大学医学部卒業。公立陶生病院、国立療養所東名古屋病院、国立名古屋大学医学部附属病院等勤務を経て、2008年公立陶生病院呼吸器・アレルギー内科部長就任。09年けやき内科開設。日本内科学会認定総合内科専門医、日本呼吸器学会認定呼吸器専門医。

軽い症状と放置せず継続的な治療を

加藤　ぜんそくの継続的な治療を、最近になって始められたそうですね。

優木　子どもの頃は、夜中に息苦しくなったり、症状も出ることが多かったのですが、大人になってからは、たまに調子が悪くなる程度で、あまり病院にも行きませんでした。夜にせきが出ても日中には治まります。そうしているうちに忙しいし、診てもらわなくてもいいかなと考えてしまうんです。

加藤　ぜんそくは症状が出たり出なかったりする変動性が特徴ですが、症状を繰り返すことで体が慣れてしまい感覚がまひしてしまうことがあります。優木さんの場合もまひしていたのかもしれませんね。ぜんそくは気管支の慢性的な炎症なので、きちんと治療を継続しないとぶり返すように症状が出て、気づかないうちに悪化してしまう可能性があります。

優木　そうかもしれません。自分では普通だと思っていたんですが、バースデーケーキのろうそくを一息では吹き消せなかったんです。

加藤　それはかなり重症だったかもしれませんね。自己判断では、自分の状態を正確に測れません。呼吸器専門医の検査を受けて、客観的な状態を知ることが大切です。

優木　私も専門の先生の検査を受けたところ、肺年齢が68歳といわれたことで、継続治療を始める気持ちが高まりました。

加藤　きちんと治療すれば実年齢程度に回復する例が多いので、ぜひ治療を継続してください。

優木　治療を始めて数カ月たちましたが、今では娘の風船や浮き輪も膨らませられるようになりました。

10年、20年先の健康を考えぜんそくに向き合う

優木　先生のところにはどんな患者さんが来られることが多いですか。

加藤　風邪をひいた後にせきが長く続くということで来られて、ぜんそくの診断がつく方が多いですね。優木さんと違って小児ぜんそくの経験もなく、大人になって初めてぜんそくになる方も多いので、「ゼイゼイいっていないのにぜんそくですか」と驚かれることもあります。

優木　患者さんの中には、かつての私のように忙しいからと治療を後回しにする方もいると思いますが、治療は考えていたよりずっと簡単で続けやすいので、ぜひ始めてほしいですね。

加藤　ぜんそくを悪化させて、仕事も休まなければならないとなったら、それは社会的損失です。10年、20年先の健康のことも考えてぜんそくに向き合ってください。

優木　私もずっと元気なお母さんでいたいです。ありがとうございました。

企画・制作＝日本経済新聞社クロスメディア営業局　　提供：グラクソ・スミスクライン株式会社

D119-00224　作成年月2018年11月